

瀬戸内トラストニュース

11号、96年10月

環瀬戸内海会議 編集・発行 / 編集委員会

Tesima 特集

豊島に未来の森を！

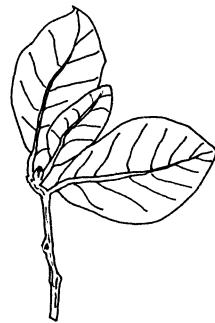
豊島からのメッセージ

石井 亨

21年間、私たち豊島住民は「ゴミ」と闘ってきました。都会から長年運ばれ続けた莫大な「ゴミ」、洗濯物が臭くなるほどの野焼き、島民の間には「ぜんそく」が多発しました。長い間、豊島のゴミは、豊島住民だけの問題であり、また、苦しみのもとでもあったのです。

百年後、この豊島はどんな姿を見せていることでしょうか。我々の子孫が平和な暮らしを営んでいてくれることを祈ります。しかし、この島の、ゴミとの闘いの歴史は忘れないで欲しい。人々が苦しみ悲しんだことを、希望をはぐくんだ日のあったことも。

そのために、森を作りたいのです。島外の人々のご協力をお願いしたいと思います。この国が、私たちの国の歴史として、豊島を忘れないために。いつまでも語り継ぎ、二度と過ちを繰り返さないために。共に、これから百年を紡いでいきたいと願います。



目次

豊島に未来の森を！	… 1
速報！総選挙近づく	
公開質問状	… 2
党首からの回答	… 3
豊島レポート	… 4・5
瀬戸内海と豊島問題	… 6
白木町大谷から	… 6
「未来の森」を育てよう	… 7
事務局NEWS	… 7
秋の豊島集会ごあんない	… 8

速報！ 総選挙近づく！

党首に公開質問状を出しました。

どうか、あなたの一票の参考にして下さい。

各党党首宛

環瀬戸内海会議

代表・阿部悦子

選挙制度改革による小選挙区比例代表制の下での初の衆議院選挙の公示日を目前にして、ご多忙の日程をお過ごしのことと存じます。

さて、私共、環瀬戸内海会議は、1990年6月、瀬戸内周辺11府県のゴルフ場リゾート問題を取り組む、環境保護団体によって結成されました。

以後「リゾート法」を背景に、吹き荒れたゴルフ場ブームから、ふるさとの山野を守ろうと、立木トラスト運動などに取り組んで参りました。現在では12都道府県60団体の参加のもとに全国の立木オーナーの人々とともに、閉鎖性海域といわれる瀬戸内海の環境保全の為の活動を続けております。

さて、今総選挙は「争点の見えにくい選挙である」ともいわれておりますが、私共は各党の政策を具体的にお尋ねすることによって、今選挙にさらに関心を深め、主体的に政治参加を果たして参りたいと思っております。

そこで、瀬戸内海が抱えるゴミ問題について以下お尋ねいたします。

私共は瀬戸内海が都会のゴミ捨て場と成っている現状を踏まえ特に豊島問題についてお尋ねいたします。

ひとこと

公示日直前に滑り込んだようなアンケートに、どの党も、丁寧な回答を送ってくれました。廃棄物やエネルギーの問題、また、循環型社会への転換というテーマが、政治・経済・市民生活にとって等しく重大であるという関心の高さが、現れているように思います。

個別には、「さきがけ」が無回答であったことと、「自由民主党」が、香川県案を一応評価したことを除いて、現状には批判的であり、前向きの姿勢を示しています。特に、政策を具体的に提示したのは「日本共産党」ですが、どの政党も、選挙後にこそ、政策として実現して欲しいものです。

1990年、兵庫県警の摘発によって発覚した日本最大の産業廃棄物不法投棄事件の動向については、不法投棄と現状回復の象徴として、また私たち及び私たちの子孫の生活・生命に直接影響を及ぼす一大事件として、注意深く見守っているところです。

さる9月26日には、香川県議会代表質問において、平井城一香川県知事は「必要かつ十分な措置」として遮水工と、半永久的な揚水及び水処理を行うという具体的な案を示されました。

私たちは、まだこの世に生を受けてもない子孫に巨大な負の遺産を押し付けることになるのではないかと危惧しております。

質問

- 1 行き場を失った廃棄物は、過密から過疎へ一方的に流動しているように思われますが、現状を、どのように認識していますか。
- 2 政策として、廃棄物問題、循環型社会への転換という問題に対して、どのようなビジョンを持っていますか。
- 3 今回、香川県の示した案をどのように評価されますか。

党首からの回答

(各党よりの回答・抜粋しています／順不同)

社会民主党

- 1 …政府においても検討中の廃棄物処理法の改正は、罰金の引き上げばかりでなく強い規制を必要とする全面的な改正でなければならない。
- 2 …1991年に①資源エネルギー有効利用環境保全型経済社会形成促進法案、②廃棄物処理法の全面改正案、③廃棄物利用発電法案などを起案し、共同提案を呼びかけたが、提案に及ばなかった。
- 3 …臭いモノを覆い隠すだけで、まさに「臭いモノに蓋」のそしりは免れない。今回の案は初期処理として、島民が納得出来る結論を得るよう、努力すべき。

日本共産党

- 1 …(政府の問題は大きいが)、環境保全よりも企業利益を優先させる政府の姿勢とともに、地方自治体の環境行政のあり方も、安全で美しい環境を守りたいという住民の立場から、ほど遠いものになっている。豊島問題はこの現れである。
- 2 …ゴミ問題の解決のために、①ゴミの根本対策は減量とリサイクルであり、徹底して大幅にゴミを減らす、②最終処分場の安全対策を万全にし、可能な限り延命をはかる、③産業廃棄物や危険ゴミについて大企業の社会的責任を明らかにする、④ゴミ対策抜きの開発計画を凍結する、⑤ゴミ行政に住民参加など民主主義をつらぬく。
- 3 …当面、行政の代執行により廃棄物を除去する。そして中間処理などで無害化をはかり、適切な処分・管理を行う方向で検討すべき。

さきがけ

- 1・2 …党の選挙公約(2 地球環境の保全と資源循環型社会への脱皮)を参照。
- 3 …香川県に組織もなく、把握できないため、無回答として頂きたい。

新進党

- 1 …最終処分場の状況などの関係などから県を越えて廃棄物が、特に、過密地域から過疎地域へ流動

している状況にある。

- 2 …環境分野を21世紀型産業のニューフロンティアと位置づけ、環境産業の拡大と雇用の創出をはかる。
- 3 …将来のことを考えると、極めて疑問がある。国、県、産廃業者、それぞれの責任を明確にし、特に、国も相応の負担をすべきである。

新社会党

- 1 …「人とモノ」は都市に集中して、廃棄物やゴミは過疎地に押しつけられている。
- 2 …廃棄物の削減と有効利用を生産—消費—回収—再利用のシステムとして確立する。
- 3 …県の責任の明確化。

民主党

- 1 …早急に廃棄物処理法等の見直しが必要。それを明確にした上で、都市計画と一体となった計画的整備をすすめ、自然との共生を基本にした都市づくりが必要。
- 2 …容器包装リサイクル法の実施により、分別収集、再生利用、デポジット制度の導入、生ゴミの肥料化など、資源リサイクルが深く定着した社会を実現する。また、環境リサイクル産業を積極的に育成する。
- 3 …地域住民の方が求めている考えにはほど遠いと思う。他の対策案の再検討や、産廃の受け入れ先の問題など、多角的に、みんなで解決策を考える。

自由民主党

- 1 …処理施設の信頼性・安全性の向上、環境汚染を生じさせない施設確保のための方策や不法投棄対策及びそれに伴う現状回復の方策など、産業廃棄物処理施設制度の全般的な見直し検討が必要。
- 2 …ゴミそのものの排出を抑制する、排出されたゴミは出来る限りリサイクルする、焼却する場合にあっても熱エネルギーを回収することを徹底し、社会経済構造をリサイクル型へ転換する。
- 3 …現状を一時も早く環境を保全するという立場に立てば、それなりに評価できる。この案で住民の理解が得られれば良いが。 (文責 畑)

豊島 石井 亨

豊 島 レ

瀬戸内海の小島、香川県豊島の西端には、現在50万トンを越える有害産業廃棄物が、野ざらし状態で放置されたままになっている。

その廃棄物のほとんどは、鉛などの複数の物質で産業廃棄物の埋め立てに係る有害の判定基準を大きく超過しており、野焼きが原因と見られる高濃度ダイオキシンの存在が確認されている。海岸の生物（カキ）からも重金属やダイオキシンが検出されるなど憂慮される事態を迎えている。

現在、豊島住民の訴えにより、これらの廃棄物の撤去などをめぐって、公害調停が行われており、こうした廃棄物の実態は、公害調停の過程で2億3千600万円の国費を投じて行われた実態調査によって明らかにされたものである。

この調査の結論として「早急な対策の必要性」が明示され、同時に複数の具体的対策案が示されたが、いずれも134～191億円という莫大な経費が見込まれており、どんな方法で廃棄物を処理し、その費用を誰が負担するのか、いまだに処理の方策は見えてこない。

豊島における産業廃棄物不法投棄事件は、1990年、兵庫県警の摘発によってその実態が明るみに出て全国の知るところとなった。

香川県の許可した豊島総合開発株式会社（ミミズ養殖による限定無害産業廃棄物中間処理業者）によって「金属回収原料の一時保管」という詭弁のもとに約20万m³で13年間にわたり極めて悪質な不法投棄が行われていたものである。



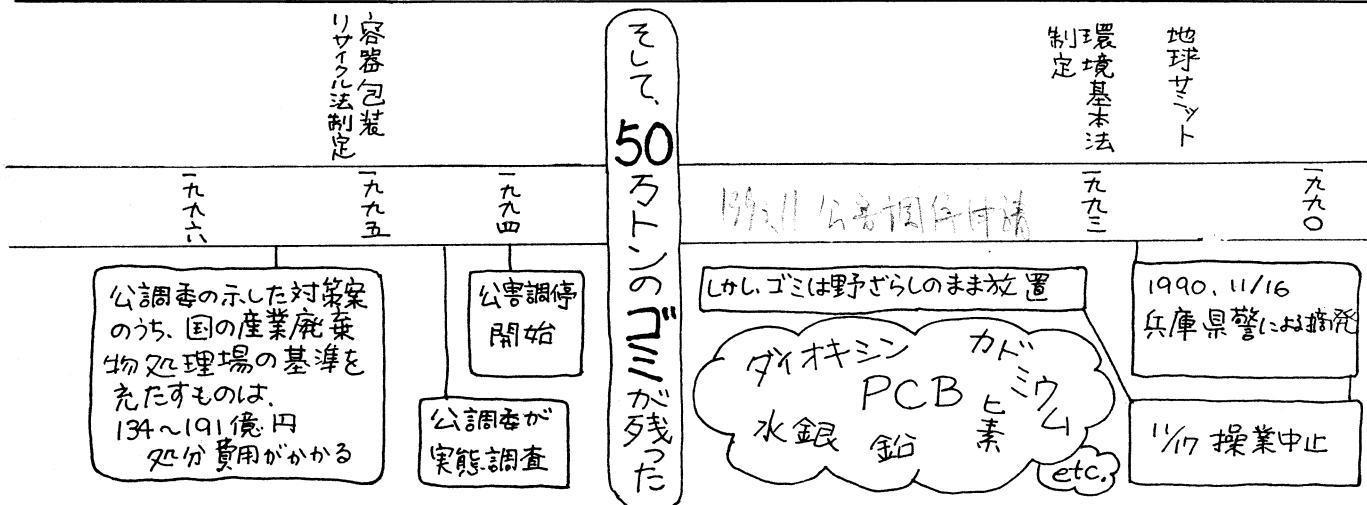
事件の発端は、1975年に事業者が国立公園普通地域から第2種特別地域にかけて、有害産業廃棄物処理場を計画したことによる。

いざなは「島の環境を悪化させ、住民の健康を損なうことになる」と考えた私たちは、強力に反対運動を進めた。

香川県は一貫して「事業者には廃棄物処理業を営み生活する権利がある」として許可の方針を貫いた。

私たちの反対運動は、裁判にまで至ったが、ミミズ養殖は畜産業の一種、環境汚染などあり得ないという香川県の説得と、県による監視の約束を受けて和解に至る。

3年にわたる反対運動を経て、ミミズ養殖業が開始されたが、操業開始と同時に違法状態が目立ち、香川県に対して事実を訴えたが有効な指導はなされなかった。



ポート



残された違法産業廃棄物 (1991.5)

私たちは、立ち入りの実施や公開質問状、行政監察局への訴えなどあらゆる方法をとったが、兵庫県警の摘発に至るまで、香川県による有効策は打ち出されなかった。

兵庫県警摘発の後、今日までに香川県の指導に基づいて、1千トンあまりの廃棄物が撤去されたが、香川県はこの実績をもって事実上の安全宣言と思われる発表を行い、残る16万トン（実際には50万トン）あまりの廃棄物の撤去は困難であると表明した。

事件がうやむやにされるのを恐れた私たちは兵庫県警の刑事事件調書を取り寄せ、実態の究明に望んだ。そこから、香川県は当初から違法状態をよく知っていて、およそ事業者に加担していたともいえる「あってはならない行政の姿勢」が浮かび上がってきただ。

これを機に、ほぼ全島民による公害調停申請に至る。

発端から21年、摘発から6年目、調停申請からでさえも3年目を迎えた今日、現場は放置され、こうしている現在も汚染の脅威が瀬戸内海を脅かしている。

しかし、いまだにここに放置された有害産業廃棄物の責任をだれが、どのように取るのか明確な方法は示されずにいる。

一方、豊島では、汚染の事実が明らかにされるに従い「ゴミの島」「毒の島」との風評が広がり一次産品の販売難、観光客の激減など深刻な事態を迎え、また調停申請後だけでも3,000万円を越える実費を拠出しており1,500人に満たない離島住民にとっては非常に厳しい鬱々となっている。

豊島事件は、悪質な業者と行政のあってはならない姿勢によって引き起こされた。しかし、その背景には日本の廃棄物行政が「出たゴミをいかに処分するか」に終始しているという問題が存在している。

また、今回の事件は、一度破壊された環境を回復することが、いかに困難であるかを示している。

いまこそ「出されたゴミ」に責任を負うべきは誰であって、コストを支払うべきは誰なのか明らかにされねばならない。

私たちは、たとえ相当なコストがかかろうとも産業廃棄物を撤去し原状回復を実現することが、事件の再発を防ぐ唯一の方法であり、ひいては循環型社会への転換をはかる一助になると信じている。

バーゼン条約	瀬戸内国際空港開通	着工事故	原発事故	国際技術博覧会	オゾン層破壊	日本自動車の生産	世界に化粧品登録	瀬戸内海富栄養化防止条例	びわ湖富栄養化特別措置法	豊島内海環境保全特別措置法	ダイオキシン汚染	イタリアで	山陽新幹線開通	東京博多間連	自然豊かな島ある日の都合の悪い出来事
一九九〇	一九九六	一九八八	一九八七	一九八六	一九八五	一九八四	一九八三	一九八二	一九八一	一九七九	一九七八	一九七七	一九七六	一九七三	
海上保安庁姫路海上保安署が廃棄物処理法違反容疑で事業者を検挙	せんそくが増える	この頃から野焼きの苦情が激増	都会のゴミがやってきた！	ミズ養殖による中間処理に申請変更	豊島総合観光開発K.K.が有害産業廃棄物処理許可を申請	同時に、豊島住民の反対運動がはじまる									
操業開始と同時に許可外の廃棄物投入															

瀬戸内海と豊島問題

徳島県池田町 工藤政幸

私の住む徳島県池田町では、「四国の尾瀬」と呼ばれる山頂湿原、黒沢湿原のゴルフ場計画を、平成3年立木トラストでストップに追い込みました。

しかし、平成5年には、町の水源地での一般廃棄物処分場計画が明らかになりました。四国最長の雄大な吉野川に注ぐ谷川、30m上流での計画であり、三好郡8ヶ町村の広域行政組合が事業主体です。

以来、池田町では2ヶ所目の立木トラストで、処分場規模の縮小に追い込んだものの、最近組合は、土地確保も不充分なまま、工事発注に及んでいます。何がなんでも計画を強行しようとしているのです。

一般ゴミといえども、現在のような、我が国での焼却と埋め立て地の確保によって問題を切り抜けるやり方は、限りなく環境を汚染し続けることになります。ゴミ問題の解決は、我が国の政治・経済の方向転換と私達の生活のあり方を問いかすことの中にしか見つけることはできません。

さて、わが町の処分場計画のある吉野川下流の香川県は、この水を生活用水として使っています。高松市とその周辺人々の飲み水をおびやかすものもあります。そして、やがて瀬戸内海に注ぎます。吉野川の水が豊島沖の水と出会うこともあるでしょう。私たちは、水によってつながっているのです。

豊島のゴミ問題は、その量の多さといい、汚染状況といい、深刻さは世界一であるといいます。私たち瀬戸内住民が、又日本人々が、この豊島問題を抜本的に解決する時、同時に我が国ゴミ問題が、真の解決のための一歩をふみ出す時でもあります。ここに瀬戸内住民として、豊島問題に関わる意義の大ささがあると思っています。

白木町大谷から

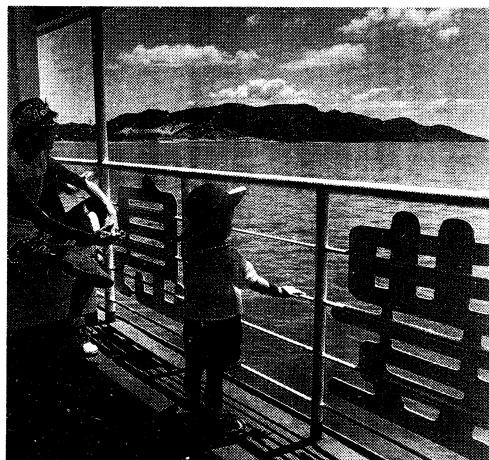
広島市白木町 西川恵子

平成8年8月11日、ゴミプロジェクト、松本さんのお世話で第1回の豊島訪問をしました。ゴミの山のあまりのひどさに言葉もせず、ゴミからしみ出

した汚染された水が、じわじわと瀬戸内海に滲み出していることを思えば、ゾッとした。国が調査のために掘った穴（トレーニング）の蓋を開けると、風下にいた私は、その臭いを吸ってしまって2日間は頭痛が直りませんでした。実に恐ろしいことだと感じました。

私の住む白木町大谷では、広島市全域のゴミを7年間埋める処分場計画があります。私の家はその下流で米を作り、井戸水を飲み水としています。この谷は太田川の上流の水源であり、下流では広島県・市民の水道水を供給しているのです。何とかこの計画の見直しを、と願う私たちの声は行政に届かず、環境アセスメントも終りました。

こんな重苦しい気持ちを抱えての2度目の訪問は、9月15、16日でした。豊島に対して、私たちはどのようなお手伝いができるかなど、島の皆さんのお気持ちを聞いたり、私たちの思いをお話したりして、大変貴重な時を過ごしました。交流会も盛り上がり楽しい時間は、本当にあっという間に過ぎてゆきました。お互い問題を抱えながらも、子供たちの未来を想う熱い心をもった同志に出あったような気がしました。「皆さんの元気なエネルギーをもって帰りたい。」と私が言うのを何人の方が、「いっぱいもって帰りなさい。がんばって下さい。」と口々に言って下さり、気弱になっている私を励まして下さいました。そして、「よーし、また白木町でがんばる！」という気持ちと勇気が湧いてきました。豊島の皆さん、ほんとうにありがとうございました。また皆さんのお顔を見に行かせて下さい。



宇野～豊島～小豆島を連絡するフェリーから眺める島影。産業廃棄場も見える。

「未来の森」を育てよう

私たちが生活の便利さのためにゴミを生み出し、その行方について無関心であったために、瀬戸内海国立公園の海に浮かぶ豊島には、50万㌧の有害な廃棄物の山が放置されています。島の人々は20年以上もの長い年月、このゴミの害に苦しみ、闘ってこられました。

私たち環瀬戸内海会議は、この豊島に「未来の森」を育てようという試みによって、島の人たちと私たちをつなぐ新しい絆が生まれ、未来の子供たちに「豊」かな自然に恵まれた「島」を残していくことを願っています。

[目的]

- ① 豊島問題の解決のゆえを、豊島「未来の森」に参加することで、私たち自身の問題として見守り、支援していく。
- ② 島の人たちは、公害調停や裁判のために年間1500万円もの運動資金を1500人の島民自ら捻出してこられました。「未来の森」に参加された皆さんから集められた資金は、森の育成、維持、管理のほか、運動の資金援助としても活用されます。

[申込み方法]

参加形式、金額、申込み先など詳しいことは、次号でお知らせします。

事務局ニュース

環瀬戸内海会議は、バブル時代、ゴルフ場リゾートブームのまっただ中の1990年6月に、瀬戸内海沿岸12府県の人々の手で発足しました。瀬戸内海という閉鎖性海域をとり囲む地域を一つの共有する環境と考え、ゴルフ場の乱開発にストップをかけたいとの願いからでした。そして、全国6000人のオーナーの方々の結集により、17ヶ所のゴルフ場を立木トラストによって中止に追い込むことができました。

あれから6年余を経て、ゴルフ場ブームは去りましたが、神戸空港などの埋立型の空港開発や紀淡海峡・豊予海峡ルートなどの大型架橋開発工事、岩国沖米軍基地用地の埋立、豊島に代表される有害廃棄物の不法投棄と、ますます瀬戸内海の抱える問題は深刻です。

こうした状況に対して、今年度から環瀬戸内海会議では、瀬戸内海の乱開発を野放しにしてきた瀬戸内法の改正を検討する「瀬戸内法改正プロジェクト」と廃棄物処理問題と共に考えていく「ゴミ問題プロジェクト」を発足させました。会員の皆さんには、各地の海の変化や廃棄物処理の実態などについての情報を寄せていただきたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。

(阿部)

豊島に関する記事は、「豊島は私たちの問題ネットワーク」作成の『豊島問題リーフレット』(一部100円)を参考にしました。ご入用の方は、豊島交流センター(☎761-46香川県小豆郡土庄町豊島家浦3841-21Tel&Fax 0879-68-2150)へお問い合わせください。

写真は、<小林 恵写真集「心の島」鯨吼社>より著者の許可を得て、掲載しました。

秋の豊島集会ごあんない

—いっしょに豊島を見にいきませんか?—

日程 11月23日(土)・24日(日)

集合 23日 13:00 豊島家浦港

スケジュール 産廃不法投棄現地見学

豊島の人たちとの交流

「未来の森」予定地散策

島内観光

宿泊 民宿、豊島交流センターなど

申込み先 環瀬戸内海会議ゴミプロジェクト事務局

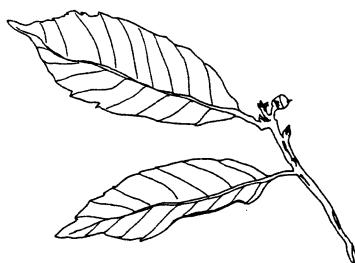
藤原宏 ☎ 0869(67)0273

申込み〆切 11月10日

参加費用 10,000円

(1泊2食、懇親会)

※交通機関等詳細は申込み者に送ります。



瀬戸内トラストニュース第11号 1996年10月15日神戸事務局発行

環瀬戸内海会議代表 阿部悦子

☎ 794 今治市別宮町9-7-4 ☎ (0898) 32-0100

広島事務局「森と水と土を考える会」

☎ 733 広島市天満町9-8 ☎・FAX (082) 296-1444

郵便振替 01390-8-25742 加入者 瀬戸内トラスト
